

とも 歩む 3

滝脇 憲



東京都の
東部、荒川
区と台東区
にまたがる

山^ま谷^や地域は、かつて「日雇
い労働者の街」として知ら
れた。戦後の高度成長に伴

い、全国から労働者が流入。
1960年代前半の最盛期
には約1万5000人が簡
易宿所に滞在した。バブル
経済崩壊後は、労働者の数

代の減少と単身高齢者の増
加は、東京が近い将来、直
面する課題でもある。不安
定な仕事を続けてきたかつ
ての労働者たちは、多くが

東京・山谷で高齢者支援

は3分の1ほどに。高齢化
も進み、4人のうち3人が
60歳以上と言われる。
山谷の状況は突出してい
るかもしれないが、現役世

生活保護受給者となった。
介護が必要になっても、支
えてくれる家族はなく、認
知症も増えている。彼らを
どう支え、人生の末期をど

うみとるか。課題は多い。

しかし、ここには希望も
ある。施設を頼れないため
地域で生き抜く覚悟をした
人たちが、互いに支え合い、
支援団体と医療・介護の連
携も活発だ。

私がかかわるNPO法人
「ふるさとの会」は90年、
山谷で彼らの支援を始め
た。様々な事情で故郷に帰
れない労働者たちを集め、
故郷の鍋を囲んで元気を出
してもらったのが当初の活動

で、会の名称の由来だ。

それから四半世紀。今は
空き家を借りて、介護が必
要な高齢者や障害者など、
様々な生きづらさを抱える
人たちに住まいを提供し、
生活支援をしている。誰も
が地域で孤立せず最後まで
暮らせるよう取り組む我々
の日常を紹介したい。

◇
42歳。「自立支援センタ
ーふるさとの会」理事。東
京外国語大学非常勤講師。

* 6人によるリレーコラムです。